

ラオス人民民主共和国 パクサン地域開発プログラム(LAO-185689)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 活動の成果が少しずつ 実感できるようになってきました



木の下に集まり、絵本を読む子どもたち

パクサン地域開発プログラム(以下、ADP)は、事業開始から3年が経ち、活動の成果が目に見えるようになってきました。きれいな水を使うことができる家庭が増え、衛生環境も整ってきました。伝染病の予防も進み、乳幼児の栄養不良や発育不良などの問題も改善されてきました。

さらに教育でも、就学率が高まり、中退をする生徒はほとんどいません。教育の質も郡の基準に照らして、大きく改善されてきています。

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

ワールド・ビジョン・パクサンADPのスタッフは、地域の子どもたち、特に弱く貧しい子どもたちの生活を改善するために活動を続けています。家族が収入を得ることに困らないようになること、病気にかからず、病気になっても適切な治療が受けられるようになること、衛生的な水、トイレなどの環境が整うこと、良い教育環境、教師の下で子どもたちが必要な教育を受けられること、が私たちの目標です。

この目標に向けて実現できるよう活動を続けていきます。皆さまからいただくご支援に心から感謝を申し上げます。



ペット・ワタナ (パクサンADPマネージャー)

## 食糧安全保障プロジェクト

### 灌がい施設の整備によって乾季の農作物の収穫量が増えました

今年度の大きな出来事のひとつに2つの村で用水路の整備が完了したことがあげられます。2つの村は川沿いにありますが、標高差があるため政府が揚水ポンプ※を敷設しました。雨が降らない乾季にはその水を使って農業を行っていましたが、ポンプから畑までの用水路は土で固めたただけのもので、漏水も多く、耕作できる農地も限られていました。ADPの支援によりコンクリート製の用水路が付設されたことにより、農地の拡大ができるようになりました。水が供給される農地は50ヘクタールにおよび、一年を通じて米の栽培ができるようになりました。子どもがいる160世帯あまりがこの用水路によって恩

恵を受けています。

また、ADPでは5つの村の48世帯に養鶏、20世帯に米栽培、そして206世帯に野菜や豆、トウモロコシなどの裏作栽培に必要な資器材を支援し、研修を実施しました。この結果、241人の子どもの栄養状態改善につながりました。

※低い場所から高い場所などに水を移動させるために水を汲み上げるためのポンプ

支援を受けて、知識や技術を農業に反映していることをスタッフに伝える村人



野菜の種などの支援物資を受けとるために集まる村の人々

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



チャイルド・スポンサーシップの理解を深めるためのワークショップの様子。子どもが興味をひくように楽しいゲームを取り入れています

## 指導者育成プロジェクト

### 自分たちの地域の将来を自分たちで描けるよう学んでいます

地域で行われている支援活動に地域住民らが主体的に関わっていくことができるよう、ADPでは、地域住民の代表者や政府関係機関により構成される村落開発委員会の強化につとめています。今年度は、村落開発委員会が実施する活動が、子どもたちの健やかな成長に貢献するものになっているかを確認するフォ

ローアップを2回実施しました。また自主的に開発事業を実施していくことができるように、地域の支援活動を担う村落委員会の委員たちに公式文書の書き方や計画策定、報告書の書き方や報告の方法について研修をしました。これらの活動を通して、徐々に地域に対する自主性が高まっています。

## チャイルド・ストーリー

### 学校と家庭への支援により変わったバンマニーちゃんの新しい生活

12歳のバンマニーちゃんは、水田の向こうに昇る朝日を見ながら、学校に通う子どもたちを見つめています。子どもたちに背を向け、バンマニーちゃんは家族の食べ物を探しに出かけます。米の刈り取りまでまだ1カ月余りもありますが、家には食べ物が残っていないからです。村の学校では、1年生から4年生までの子どもたちが、竹で作った1つの教室で窮屈そうに学んでいます。たまに時間があってバンマニーちゃんが授業に参加しても、集中を保つのに苦労します。1人の先生が全部の学年を教えているからです。傷んだ校舎は雨季には屋根から雨が漏り、子どもたちはびしょ濡れになるため、雨がひどいと休校になります。

そのような中、昨年からワールド・ビジョンが、村の生活改善に取り組

みはじめ、バンマニーちゃんの家族も支援が必要だと認定されました。鶏や野菜の提供を受け、鶏の世話の仕方、野菜の栽培法を学びました。自分たちの食料とするだけでなく、余れば売って現金収入を得るためです。学校の学習環境も良くなりました。ワールド・ビジョンが資材やセメントを支援し、地域の人が力を合わせて、1カ月で教室を2つ、トイレ、給水所、事務室を作りました。先生も2人補充されました。新しい教室と2人の先生が加わって、学校に来る子どもの数が増えました。家族の収入が増えたことで、子どもたちが食べ物探しから解放され、勉強に集中できるようになりました。そして、バンマニーちゃんも朝、通学する子どもの列に加わるようになりました。楽しい1日の始まりです。



バンマニーちゃん

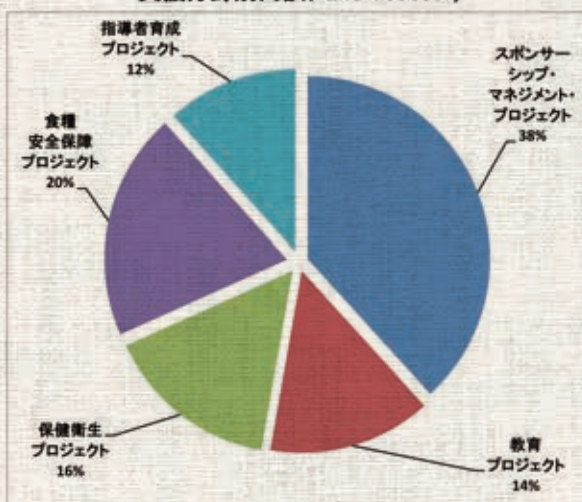
## 会計報告

### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	LAO-185689 (単位:円)
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	21,869,335
当期支援額	21,869,335
前期繰越金	20,346,259
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>42,215,594</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	10,998,169
教育プロジェクト	4,167,063
保健衛生プロジェクト	4,460,882
食糧安全保障プロジェクト	5,767,273
指導者育成プロジェクト	3,348,621
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>28,742,008</b>
次期繰越額	13,473,586

### 支援分野別内訳( LAO-185689 )



## 保健衛生プロジェクト

### 保健施設の整備の支援とともに人々への啓発活動に力を入れています

ADPでは、3つの村に7本の深井戸を設置し、2つの小学校に給水設備とトイレを支援しました。さらに2つの村の57世帯にトイレの設置を支援しました。その結果、安全な水を手に入れ、衛生的なトイレを利用できる世帯が増えました。

医療面では、20の村をカバーする3つの地域保健センターに医療器具を提供し、郡保健局のスタッフ、区の保健スタッフ、村落保健ワーカーの計26人に医療器具の使い方などの訓練を実施しました。また、9つの村でHIV/エイズの意識啓発を行いました。

さらに、出産に関する母親の意識向上を目的として、出産間隔についての知識や母乳育児、子育てについての講習会も実施しました。栄養改善の知識を増すためのキャンペーンを5つの村で実施し、160人の母親と58人の子どもたちがこの活動に参加しました。

また予防接種の大切さに関する認識も深まり、対象地域の5歳未満の子どもの必要な予防接種の接種率は99%にまで上がりました。



地域の保健センターで予防接種を受ける子ども

## 教育プロジェクト

### 子どもたちを学校へー教師、保護者、地域 一体の取り組みが始まっています

今年度は特に、郡の教育担当者と協力し、保護者が教育の大切さについて理解を深めるための活動を行ってきました。保護者と教師が話し合いできるように保護者会の概念が地域に導入されました。そして、保護者が教師の指導法を確認し、教師とともに、生徒たちに授業への出席を促す取り組みが始められています。

小学校4校の改築、そのうち1校の通学路改修のための資材提供、5校に対してスポーツ用品や机・イスといった学校備品の支援も行いました。小学

校のトイレや水衛生環境の整備を通して学校がより快適になりました。

また子どもたちの読み書き、計算能力の向上のために、小学校の教師の教授法のスキルアップを図ってい

ます。今年度は、5つの村の20人の小学校教師を対象に新しい手法やカリキュラムの導入講習会を実施しました。

これらの活動を通して、教育の質が上がり、子どもたちの就学率の向上に貢献しています。



スポーツ用品の支援を受けて喜ぶ子どもたち

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: dservice@worldvision.or.jp ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

ラオス人民共和国 パランサイ地域開発プログラム(LAO-181495)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 子どもたちを取り巻く環境の変化に 多角的に対応をしています

2013年度も、パランサイ地域開発プログラム(以下、ADP)では、対象となる19の村で食糧確保、教育、保健、指導者育成の分野での活動を実施しました。

食糧確保分野では、米の改良品種を40世帯に配布したところ、収穫量が上がり食糧の自給に大きく貢献したことが確認できました。灌がい施設の設置や信用組合への支援も引き続き行っています。

ラオスを含む東南アジア諸国の経済活動、交流が活発化する中、パランサイ地域にも多くの変化が見られるようになってきています。より良い現金収入の道を求めて地域を離れたり、子ども



教育や保健プロジェクトにより衛生の大切さを知り、手洗いたきれいな手を見せる子どもたち

もを学校に送らずに手伝いをさせる家族も見られます。そのような状況の中、ADPでは子どもたちの学ぶ機会を保障し、健やかな成長を支えることを目指し、地域の2つの小学校をモデル校として指定しました。施設の整備や教員配置の見直し、授業内容の質向上の研修などを重点的に行うことを通して、子どもたちや親の教育への関心と理解が増すよう働きかけました。食糧確保や保健プロジェクトが家族の収入や健康を支えることで、子どもたちが学ぶ機会を逸しないよう、多角的に取り組んでいます。

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

パランサイ地域よりごあいさつ申し上げます。

昨年度も、皆さまのご支援により子どもたちとその家族を含む地域の人々が健康に過ごし、教育を受け、必要な食糧を得られるよう活動を続けることができました。

まだ地域の多くの村で、教育環境の整備や衛生的な水へのアクセスなど様々なニーズがあります。1年間を通して十分な食糧が得られなかったり、衛生的なトイレがなく感染症のリスクにさらされている家庭も多くあります。

これまでのご支援に感謝申し上げるとともに、引き続き私たちの地域へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ポンヴィライ・ボウラバディ（パランサイADPマネージャー）



## 保健プロジェクト

### 住民の保健衛生知識や技術の向上が進んでいます

地域内における保健センター建設を支援しました。それにより、5,000人を超える近隣住民が保健サービスを受けることができるようになりました。また、村落保健ボランティアの研修を行いました。研修を受けた15人は地域住民に対して母子保健や予防接種、衛生について知識の伝達や、保健サービスにつなげる役割を担っています。巡回診療を地域で行うことによって、252人の子どもを対象に健康診断と予防接種の機会も提供しました。また、114世帯に衛生的なトイレ設置の支援を行いました。



支援により設置されたトイレを喜ぶ子ども

## 教育プロジェクト

小学校2校の建設を支援しました。その結果、160人を超える地域の子子どもたちが学校に通うことができました。また備品が不足する6校に机やイス、黒板などの教育用の備品を支援しました。3,000人あまりの子子どもたちにノートや鉛筆といった学用品の支援も行っています。教育の重要性についてのキャンペーン活動を行い、400人を超える参加者がありました。また25人の教員を対象に教育の質向上を目指して研修を行いました。



学校に登録をしても、貧しさなど様々な理由で学校に行けなくなる子どもたちが多くいます。この課題に対して教育プロジェクトでは、地域の2つの小学校をモデル校に指定し、施設の整備や教員配置の見直し、研修を重点的に行ったところ、出席率の向上が見られました。学校がより魅力的な場所になることによって、子どもたちや親の教育への関心と理解を増し、子どもたちが学び続けられるよう支援しています。

支援により学校建設が進められている様子

## 食糧確保プロジェクト

### 年間を通じた収穫と収入向上を目指しています

主食である米の改良品種を40世帯に配布した結果、収穫量が上がったことが確認できました。また食料の品目を増やすことと、収入向上の取り組みの一環として20世帯に80匹のヤギを支援、また25世帯を対象に乾季作の研修を行いました。これまで乾季は作物づくりはほとんど行われてきませんでしたが、川に堰（せき）を設けて小さなダムを造り灌がい施設を整備することによって、乾季にも農作物の栽培が継続できるようになりました。

また伝統織物を製作し、それを販売することで収入向上を目指す女性グループのメンバー15人を対象に、成功事例を学ぶスタディーツアーを実施しました。



食糧確保の支援を受けている親子



収入向上のためヤギの支援を受けた家庭の子ども

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

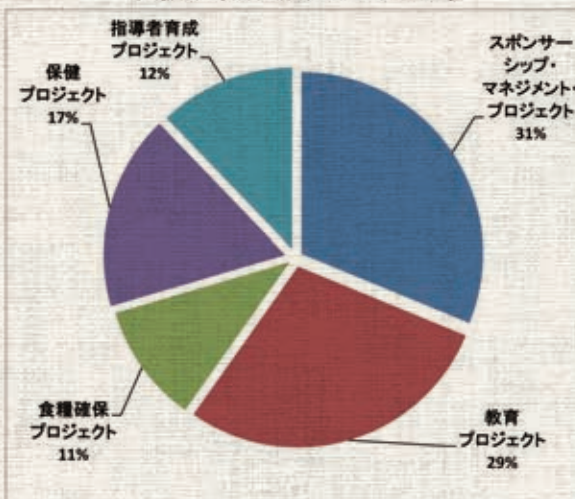
### 会計報告

#### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	LAO-181495 (単位:円)
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	41,280,534
当期支援額	41,280,534
前期繰越金	1,899,548
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>43,180,082</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	14,800,260
教育プロジェクト	13,524,826
食糧確保プロジェクト	5,060,844
保健プロジェクト	8,231,409
指導者育成プロジェクト	5,769,776
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>47,387,115</b>
次期繰越額	-4,207,033

#### 支援分野別内訳( LAO-181495 )



## 指導者育成プロジェクト

### 将来の地域づくりを担う子どもたちの参加の場づくりに努めました

地域づくりの中心を担うのは住民のリーダーや、行政機関の職員であるとされています。ワールド・ビジョンでは指導者育成プロジェクトを通して、そのような指導者で構成される村落開発委員会を支援し、メンバーに対する研修を継続的に行っています。またワールド・ビジョンでは、子どもを中心とした地域開発を進めるためには、子どもたちの参加が重要であるとの確信を持ち、子どもクラブの設立も合わせて行っています。今年度4つの村で子どもクラブの設立を支援し、414人の参加がありました。子どもクラブでは、遊びながら子どもの権利や保健衛生、そのほか、子どもたちが大人になっていく過程で必要な知識や技術を学びます。



子どもクラブの活動で手洗いを行う様子

## チャイルド・ストーリー

パンさんは49年間の人生の大半を家族が食べる米の栽培に捧げてきました。彼が耕す土地は彼の家族7人が食べる分だけを生産するのでやっとでした。しかし、天候などの理由により収穫が思わしくない年には、8月になると家族のためのお米は底を突き、市場で買い求めなければなりません。「パンさんの家族もこの村のほかの人たちも昔からの農法にしたがっていたために、米の収穫量が低くとどまっていた」とADPマネージャーは語ります。

11月、家族がそろって収穫した米は、家族が少しずつ食べて一年を過ごすのにやっとの量で、余分に売るほどはありませんでした。

昨年、ワールド・ビジョンは、このパンさんの村で米の収穫量を上げる試みをしました。農家に新しい品種の苗を配り、地方政府とともに栽培方法の技術研修を行いました。パンさんをはじめ研修を受けた農民たちは、各自の農地でこの新しい方法を早速試してみました。その結果、パンさんの農地での収穫量

は前年の3倍になり、家族は食べるに必要なお米以上の量を初めて収穫することができました。余剰な米は市場で売られ、子どもたちの学用品や新しい農機具を買うのに使われました。パンさんは、現在、モデル農家の1人としてほかの農家に改良農法の指導をしています。



パンさんとその家族

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話 : 03-5334-5351 FAX : 03-5334-5359

e-mail : [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) ホームページ : [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。



ラオス人民民主共和国 タバントン地域開発プログラム(LAO-184715)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 5年間の成果を振り返りつつ 地域づくりの次なる段階に進みます



教育プロジェクトによる学習環境改善により、図書室で本を読む時間を持てるようになりました

子どもたちとその家族、そして地域の人々自身が地域の発展を担って行けることを目指して続けられてきたタバントン地域開発プログラム(以下、ADP)は、教育、食糧安定供給、指導者育成、スポンサーシップ・マネジメントの4つのプロジェクトに、地域の人々や政府の関係機関と協力しながら取り組み、一つの節目である5年目の活動を終えることができました。成果とともに5年間の活動を通して見えてきた課題もあります。子どもたちの健やかな成長を、地域の人々自身の手で担っていけることを目指して、次なる段階の活動に進んでいきます。

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をとくに喜んでいただけますと幸いです。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

地域の人々、子どもたちへの皆さまからのご支援に感謝申し上げます。

この5年間タパントンADPでは、子どもたちの教育、健康状態の改善、地域づくりのための指導者育成に特に重点を置いて活動してきました。しかし、依然として、なすべき課題は山積しています。

危険を伴う労働市場に身を投じる子どもたち、外国で働かされる子どもたち、人身取引の対象となる危険にさらされている子どもたちがいます。

そのような状況を改善するためにも、来年度はさらに多くの家族や子どもたちに、支援を届けたいと願っています。また、人身取引の危険性とそれに巻き込まれないための啓発、学校を退学してしまう子どもたちを減らす教育の質向上、子どもたちの健康状態改善のため、来年度も活動を続けてまいります。

皆さまからのご支援を、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ソムサヌック・シサマド (タパントンADPマネージャー)



## 教育プロジェクト

### 学校環境や教師の変化が、子どもたちの学びにも変化をもたらしています

教育プロジェクトでは、子どもたちの識字力が向上し、ライフ・スキル<sup>\*</sup>を身につけていくことを目指しています。今年度も、学校の設備や校庭の整備、小学校・就学前教育センターへのトイレ設置など、子どもたちがより良い環境で勉強がきるよう支援しました。また、教育の重要性についての啓発キャンペーンを、全20カ村の2,105人を対象に2回開催しました。その結果、子どもたちやその親の教育に関する意識が72%に上昇しました。また、政府教育関係者や教師への研修を実施した結果、教師たちの教え方が向上し、教材も改善されたことなどから、学習達成度を測る試験に合格する小学生の割合が、目標を超える92.2%に達しました。

合わせて、新たに2つの教育基金の設立を支援しました。基金がきちんと運営されていくよう、3カ村の村落開発委員会のメンバー9人にトレーニングを行いました。この基金が運用されることによって、特に

貧しい世帯が子どもたちのために教育資金を得られる機会が増えました。

<sup>\*</sup>ライフ・スキル: 問題解決法、コミュニケーションスキル、対人関係、チームワーク、決断の仕方、計画性など、生きていくうえで必要な知識・技術



学校に集まってグリーティングカードを書く子どもたち

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

## 食糧安定供給プロジェクト

### 収穫量の増加が子どもたちの栄養や健康にも良い影響をもたらしています

子どもたちが十分な栄養を摂り、身体的にも健やかに成長するためには、両親の収入が安定していることが必要です。食糧安定供給プロジェクトでは、まず地域の主要作物である米の収穫量の増加を目指し、モデル農家のグループと郡農業森林局の職員に参加型調査法や有機肥料の生成などのトレーニングを行い、米の種子を支給しました。その結果、モデル農場では1haあたりの米の収穫量が4トン（5年前は3トン）に増加しました。今後、トレーニングを受けたモデル農家が新しい農法を他の農家にひろめ、それを実践することで、それぞれの米の収穫量が増加することが期待されます。また、米の生産以外の生計手段を持てるよう、貯蓄・融資グループの設立を支援したほか、29世帯に119頭のヤギの支給と飼育トレーニング、農業森林局職員と獣医への研修、農家への竹・パイナップルの苗木の支給、伝統織物を作るグループへのトレーニングや、道具の支給などを行いました。

さらに、子どもたちの健康状態の向上のため、衛生環境の改善にも取り組みました。3カ村に井戸10基を設置し、持続的に使われるよう井戸の維持基金を設立したほか、2カ村に235基のトイレと維持管理を行うための基金を支給しました。また、子どもの栄養と予防可能な感染症について、地域の保健ワーカーと伝統的助産師に研修を実施したほか、母親や就学前教育センターの教師への啓発活動などを実施しました。



支援により完成したトイレには丈夫な壁や屋根がつけられています



設置された井戸で水汲みをする親子

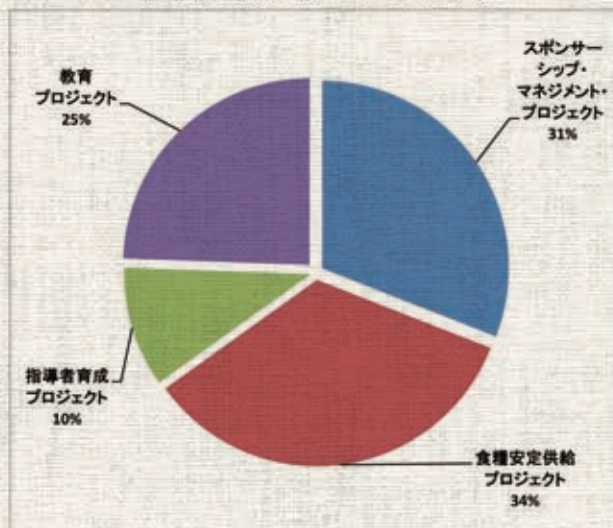
## 会計報告

### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	LAO-184715 (単位:円)
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	46,339,452
当期支援額	46,339,452
前期繰越金	5,900,404
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>52,239,856</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	15,399,878
食糧安定供給プロジェクト	16,989,252
指導者育成プロジェクト	5,191,279
教育プロジェクト	12,167,905
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>49,748,314</b>
次期繰越額	2,491,542

### 支援分野別内訳( LAO-184715 )



### 大人も子どもも地域づくりのために熱心に取り組んでいます

指導者育成プロジェクトでは、地域のリーダーたちや政府機関の関係者などがADPの活動についての理解を深め、より積極的、主体的に地域づくりを進めていけるよう活動を行っています。今年度は村落開発委員会のメンバー、郡レベルの政府機関職員の能力強化に力を入れました。具体的には、プロジェクトの管理能力の強化やリーダーシップ、マーケティングなどの研修を実施しました。また、地域の将来を担う子どもたちの活動への参加を促すため、5つの「子どもクラブ」の設立を支援しました。120人の子どもたちが参加し、子どもの権利の重要性や人身取引をはじめとした様々な地域に存在する危険から身を守る方法について学んだり、子どもたちの目線で地域の抱える課題を考え、それに対して自分たちには何ができるか話し合うなど、様々な活動を行っています。



子どもの権利についての啓発活動に参加する子どもたち

### チャイルド・ストーリー

#### 縫製技術支援によって前向きな変化が起きたペアンさんと家族

ペアンさんが、彼女の夫と3人の子どもたちに食べさせるお米はすでに底をついていました。米の収穫まではまだ何カ月もあります。運に恵まれれば夫が畑で働きながらネズミや鳥を捕まえられるかもしれませんが。こういった小動物は食用として、家族にとってその日唯一のタンパク源として調理されていました。

1日あたり1米ドル未満で生活せざるを得ないような状況下で、彼女の家族は厳しい選択を迫られていました。よその家庭では子どもが7歳になると学校へ通わせますが、ペアンさんの家では長女を依然として家に留めていました。学校の制服や教科書、ペンなどの学用品をそろえる費用はペアンさんの家族には高額だったからです。3人の子どもうちの1人が病気になったとき、ペアンさんがしてやれることはほとんどありませんでした。8歳になるアイ、6歳の

カムロイ、5歳のダオヒュンの3人の子どもたちは痛みをこらえて病気が自然治癒するのをひたすら待ちました。

ワールド・ビジョンでは、20人の女性に織機を使った織り方を指導し、グループのために道具や材料などの立ち上げに必要なものを提供しました。こうした新たな技術を身につけたグループは、すでに織物事業が進んでいるほかの地区に出向きさまざまなアイデアを学んでいます。

ペアンさんはこのグループに参加し、伝統的なラオス風スカートを縫製するようになりました。彼女の作ったスカートを皆が欲しがるように became. それを売ることで、やがてペアンさんは家族のための食糧を買うに足るだけの収入を得られるようになりました。子どもたちが病気になっても、薬を買えるだけの現金が今ではあります。ペアンさんと夫とは働いて400米ドルを得ることができました。それだけあれば学用品や制服をそろえて、娘を学校にやるができます。ペアンさんも夫も、あと2人の子どもたちが学齢に達して学校に行くようになるのを心待ちにしています。



ペアンさんと子どもたち



縫製の研修を受ける村の女性たち

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: dservice@worldvision.or.jp ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。